八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニューズレター

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER
発行部数 3,000 部
Vol.26
2015年10月発行

企画展

くらしを彩る植田家の陶磁器

イベント+アンケート結果

植田家の夏

～冷やし旧家
はじめました～

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 -（二十）」

http://kyu-uedakejutaku.jp/

展示のご案内

秋季企画展

「植田家の花鳥風月～大坂画壇Ⅲ～」

2015年10月31日(土)～12月23日(祝・水)

植田家に伝わる大坂画壇関連の作品を「花鳥風月」をテーマに展示します。

※休館日は P15 をご覧ください

お知らせ！

八尾市内文化財関連施設４館「入館無料期間」

(歴史民俗資料館、埋蔵文化財調査センター、しおんじやま古墳学習館、安中新田会所跡旧植田家住宅)

2015年11月1日(日)～11月15日(日) ※休館日は施設によって異なります

NEWS LETTER
旧植田家だより
KYU-UEDAKE INFORMATION
Volume 26

Contents

4 企画展
くらしを彩る植田家の陶磁器

6 講座「しおんじやまの話」

7 連続講座2015 前期「土 - つち - 」

8 イベント＋アンケート結果
植田家の夏～冷やし旧家 はじめました～

10 かまどでご飯炊き体験

11 三会所だより(6)

12 なにわの伝統野菜栽培日記 ㉖

13 第7回河内木綿まつり（八尾市立歴史民俗資料館主催）

14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 -（二十）」

15 旧植田家住宅のご案内

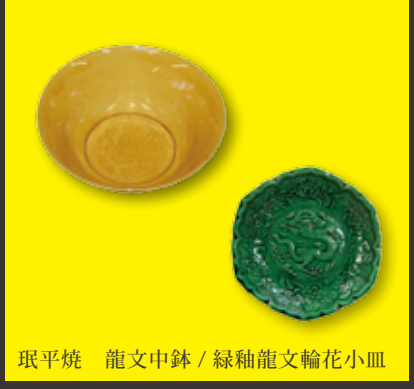
※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
http://kyu-uedakejutaku.jp

表紙写真

《染付鼠退治図盃洗（そめつけねずみたいじずはいせん）》

一つの盃（さかずき）で酒を酌み交わす酒席において、相手に酒を勧めるのに盃を洗うための水を入れておく器を盃洗といいます。今回この盃洗を展示した企画展「くらしを彩る植田家の陶磁器」については、4・5ページに掲載。

源内焼 人物虎図輪花平鉢



珉平焼　龍文中鉢 / 緑釉龍文輪花小皿

呉須赤絵龍菊牡丹文大皿

企画展

くらしを彩る 植田家の陶磁器

2015.7.16 — 9.27

青磁輪花中皿

染付芙蓉手水禽文輪花大皿

染付鼠退治図盃洗

企画展「くらしを彩る 植田家の陶磁器」

旧植田家住宅では7月16日(木)～9月27日(日)の期間中、企画展「くらしを彩る植田家の陶磁器」を開催しました。本企画展では「彩り」をテーマに、植田家の人びとがくらしの中で用いた色鮮やかな陶磁器を一堂に展示しました。ここではその企画展の内容をご紹介します。

宝永元年(1704)の大和川付け替え後にできた安中新田会所の支配人を代々つとめた植田家には、古文書、書籍、美術工芸品、生活民具など、約4万点にのぼる江戸時代から近代にかけての資料がのこされています。そのうち陶磁器類はおよそ300種類あり、そのほとんどが普段使いのものです。企画展では、その中から赤・青・黄・緑・茶色の各色ごとに、約20点の陶磁器を前期と後期で展示しました。

肥前・有田窯の《色絵金彩草花唐草文大皿》、中国・漳州窯(しょうしゅうよう)の《呉須赤絵龍菊牡丹文大皿》は赤を基調とした色鮮やかな器です。また、保命酒(ほうめいしゅ)(薬味酒)の容器に使用された岡山・備前焼の《角徳利》や素朴な風合いをもつ大坂・古曾部(こそべ)焼の《黄釉茶碗》など日本各地のやきものの他、中国、オランダ製の皿なども植田家は所蔵し、日常で使用する器にも時代や趣味

色絵人物画皿

色絵金彩草花唐草文大皿

角徳利

ギャラリートークも好評

《染付鼠退治図盃洗》（外観）鼠を追いかける男の図

講演会の様子

が感じられました。中でも、酒の席で用いる盃洗（はいせん）に「鼠退治」の場面を描いた《染付鼠退治図盃洗（はいせん）》は今回の展示の目玉のひとつでした。器の周囲には黒と白の鼠を必死で追いかける男の姿もあり、思わず苦笑してしまいます。

陶磁器は、時代や作り手、産地などによって色・形・文様が異なり、同じ用途の器であっても違った魅力と個性があります。植田家のくらしに彩りを添えた陶磁器は、当時の植田家の生活の様子を映し出すとともに、今なお色あせずにわたしたちに新鮮な驚きを与えてくれます。今回展示した以外にもたくさんの陶磁器がまだのこされています。今後も展示などを通して紹介していければと思います。

（学芸員　谷口弘美）

関連講演会「〝やきもの〟の話」

企画展の関連講演会「やきものの話～陶磁器の楽しみ方～」を、8月29日（土）、旧植田家住宅で開催しました。講演会では、展示の詳しい解説に加え、展示担当者による自己流の「陶磁器の楽しみ方」を紹介。参加者数が少なかったのが残念でしたが、参加者はそれぞれ違った視点で話を聴き、また講演会後も再び展示を観に行かれました。

講座「しおんじやまの話」

しおんじやま古墳と八尾の古墳時代

旧家で聴く古墳の話！

9月12日（土）は、八尾市の文化財関連施設の一つである「しおんじやま古墳学習館」の館長・福田和浩氏をお招きし、旧植田家住宅の座敷で講座「しおんじやまの話」を聴かせていただきました。テーマは古墳時代の八尾としおんじやま古墳。旧家で古墳の話というと、なんともミスマッチな組み合わせのようですが、それが逆に新鮮で、新しい発見でした。

講座は、複数の顔を持つ福田館長の自己紹介から始まり、そのお人柄や施設についてふれることが出来ました。話は本題に入り、まずは古墳時代についての基礎知識を学びました。学校で習った事を思い出しながら耳を傾けていると、いかにきちんと理解していなかったのかということを痛感。福田氏は、古墳時代の区分や特徴を身近な例を使って、丁寧に分かり易しく解説をされました。

自己紹介をする福田和浩氏

すこし内容を書くと、3世紀から7世紀にかけて広がりを見せた古墳時代は、およそ一〇〇年ごとに前期・中期・後期とに区分され、古墳の規模や埋葬方法などが変化していきます。近年を例に考えても、江戸時代と現代では生活様式が少しずつ違ってきていると聞けば納得ができます。

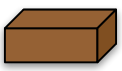
また、一般的なイメージで古墳といえば、有名な奈良の箸墓（はしはか）古墳や堺市の仁徳天皇稜（大仙稜古墳）のような巨大なものを想像しますが、今回のテーマである八尾の古墳にはそのイメージがあまりありません。ともすれば「八尾に古墳なんてあるの？」と言われる方も居たり…。福田氏によると八尾市には文化的にも歴史的にみても、かなり重要な古墳が多数あるとのことで、その中に「心合寺山（しおんじやま）古墳」のような規模の古墳もあるのだそうです。

講座は、古墳時代の前期と中期の話が中心で、最後には現在の「しおんじやま古墳」周辺や学習館の活動の話もたっぷりと聴くことができ、興味の尽きない九十分でした。

（旧植田家住宅 安藤 亮）

連続講座2015 前期

土 ―つち―



This is not a chocolate.

☆日乾煉瓦レシピ☆（1個分）

材料→赤土 1.5kg 、荒木田土 1kg、砂 500g、水　250ml、型枠（外枠）
（煉瓦のサイズW21㎝×D10㎝×H6㎝）

①赤土、荒木田土、砂を調合し、水を少しずつ加えながら全体的によくこねあわせる。
②こねた土を丸めて、型枠の中に押し入れる。
③形がくずれないようにゆっくり型枠を抜き、水をつけた手やコテなどで煉瓦の表面を滑らかにする。（クッキー型や竹串などで文様を彫ってもＯＫ）
④その後、１ヵ月ほど日陰で自然乾燥させ、頑丈に固まれば完成。

※完成した日乾煉瓦は水に弱いので、雨の当たる場所には置かないように！

第1回「くらしの中の土とうつわ」

企画展「くらしを彩る植田家の陶磁器」の開催に関連し、旧植田家住宅では「土」をテーマにした全3回の体験講座を行いました。第1回は「くらしの中の土とうつわ」（6月28日(日)）。私たちの身の回りや昔のくらしの中には土で出来たものがたくさんあります。土間、かまど、土壁、そしてやきもの（陶磁器）などについて原料の土や製造方法の切り口から話をしました。スライドの写真を見たり、陶片を触ったりしながら参加者の皆さんと一緒に「土」について考えるよい機会になりました。

少しずつ水を入れながらパンの生地をこねる要領で、全体をまんべんなく混ぜ合わせます。この作業はとても力が要りますが一番重要です。こねた土を丸め、あらかじめ用意していた煉瓦の枠（21×10×6㎝）の中に入れて型抜きをします。そして型枠から外した土の表面をきれいに整えた後は、クッキーの型や竹串などで文様や自分の名前などを彫り、オリジナルの煉瓦に仕上げます。あとは一ヵ月ほど日陰で自然乾燥させれば、日乾煉瓦の完成です。

両日とも、「久しぶりに土を触って面白かった」、「煉瓦に模様をつけるのが楽しかった」などの感想があり、参加者の皆さんに喜んでもらえた連続講座となりました。

（学芸員　谷口弘美）

第2回・第3回「日乾煉瓦（ひぼしれんが）を作ろう」

第2回（7月26日(日)）・第3回（8月23日(日)）は、同じ内容でオリジナルの「日乾煉瓦作り」に挑戦。両日とも真夏の汗ばむ陽気でしたが、日乾煉瓦作りには絶好の日和となりました。材料の土はホームセンターなどで身近に手に入る粘土質の赤土、荒木田土（あらきだつち）、つなぎに砂を用意。それらを3：2：1の割合で調合し、

これはチョコレートではありません。

イベント+アンケート結果

植田家の夏

～冷やし旧家 はじめました～

例年7月から9月にかけて来館者がぐっと少なくなる旧植田家住宅の夏。いつもは、とても静かで、ただただ暑いばかりですが、今年の夏はイベントが盛りだくさんでした。

◎こどもガイドで蚊帳体験！

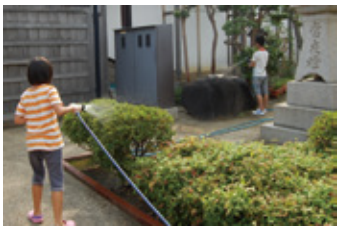
7月は子どもを対象にした「こどもガイド体験講座」を20日(祝・月)に実施。体験講座では、参加者が2人という、いつも通り(『植田家だより』バックナンバーを参照)の様子でしたが、夏ということで、ガイドの体験に加えて「蚊帳」を吊って中に入る体験をしてもらいました。近年、あまり使われなくなった蚊帳に子どもたちは大喜びでした。また昔の蚊帳だけでなく、現代の蚊帳も用意し、その違いを知ることもできました。さて、まだまだ夏のイベントは続きます。

昔なつかしい蚊帳を体験

組み立て簡単、現代の蚊帳

◎体験！夏の植田家の仕事

7月末に連続講座「土」の第2回が終了し、8月に突入。植田家主催のイベント以外の講座や行事が続く中、10日(月)は「こどもお仕事体験」(八尾市こども政策課主催)を実施しました。夏の植田家は当然暑く、参加者の子どもたちは、熱中症に注意しながら汗だくになって施設の掃除や庭の水やりをしました。また受付や学芸員の仕事も体験し、実際に展示室のワンコーナーの展示をグループ毎で考え、そのための調査と展示作業も行ないました。さて、植田家の仕事の中で何が一番楽しかったかを子どもたちに聞くと、ほとんどの子が「**水やり！**」。意外な答えでしたが、水も冷たく、やりがいのある仕事だった思います。



水やりのお仕事

展示のお仕事

◎冷やし旧家、はじめました

8月も中旬を迎え、小学生の夏休み体験や大学生の企業体験の団体見学が続くと、いよいよ今年初の納涼企画「冷やし旧家、はじめました」を実施。8月下旬から9月中旬にかけて、何と中華そばが振舞われるのではなく、暑い旧家を涼しく過ごせるように、井戸水に足をつける「足水」が体験できます。「何だ、それだけか」と思っていると大間違い。この足水によって体を芯から冷やすことができます。他にもラムネが飲めたり、蚊帳に入って昼寝が出来たりと、いつもと一味違う涼しい植田家の夏でした。

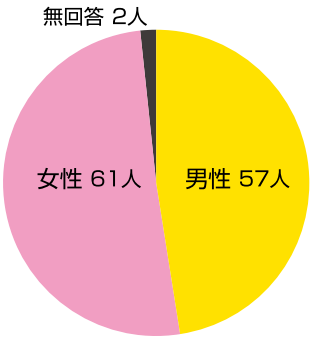
井戸水＋たらい＝足水

2015年旧植田家住宅アンケート結果

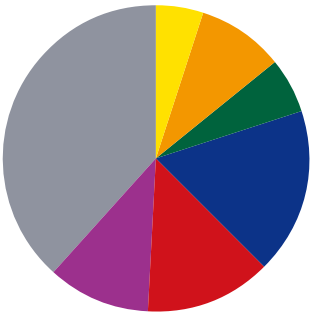
実施期間
7/16 ～ 9/18

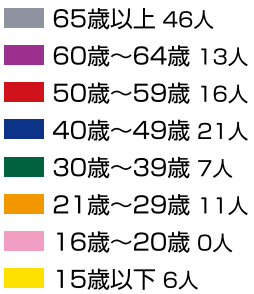
回答数
120 枚

2015 年の夏休み期間中に実施したアンケートの集計結果です。
ご協力いただきありがとうございました。

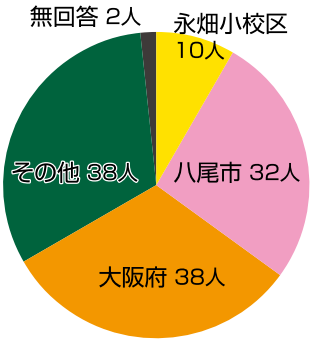


Q1. 性別？

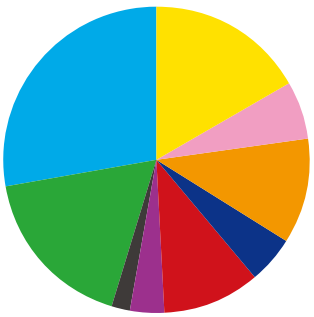


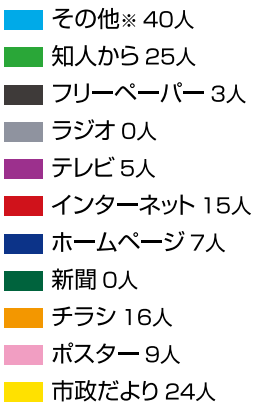


Q2. 年齢？



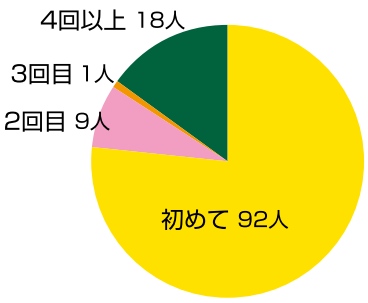
Q3. お住まいの地域は？



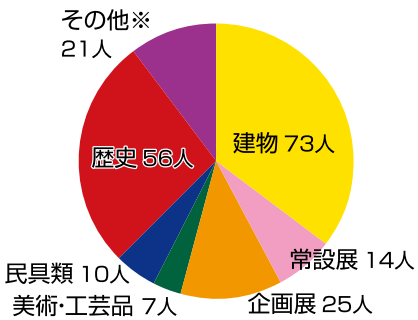


Q4. 旧植田家住宅を
何で知りましたか？

※その他　通りすがり、各種マップ、加賀屋新田会所、図書館など

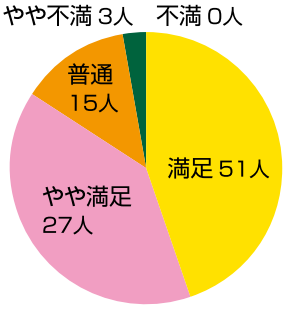


Q5. 何回目の来館？



Q6. 来館した目的は？

※その他　講座･イベント、楽しむ、いやし など



Q7. 展示について？

非常時でもおいしいご飯を！

2015.9.6（日）

かまどでご飯炊き体験

薪の組み方を伝授！

ご飯の試食

9月6日、防災を目的に、災害時に役立つ知恵やグッズの紹介と技術を身につけてもらおうと、ここ旧植田家住宅のカマドを使った「ご飯炊き体験」が行われました。今回で二度目となるこのイベント、あいにくの空模様となりましたが、親子連れを含む多数の方が参加してくださり、和気藹々（わきあいあい）とスタート。

前回と同様、実際の火入れから薪割り、火の調節など、各自で実際に体験して頂きました。中でも薪割りの経験がない子どもたちは大はしゃぎです。また、すぐ目の前で真っ赤に燃える火の熱さに少し怯えながらも興味心々。時折、パチッ！っと弾く火の粉にビックリ。薪を足したり退いたり、「次、私！」「その次、私～！」とカマド前は大混雑となりました。大人の方も釜から湧き出る美味しい湯気にニコニコ顔。夏場という事もあり、火入れから約30分でご飯が炊きあがりました。そこで最後に一技（ひとわざ）。ワラをひとつかみ火の中へ入れ、再度数秒強火にして終了です。蓋を開けると真っ白な湯気と良い香りに歓声が起こりました。

某CMに使えそうなツヤツヤで見るからに美味しそうなご飯。底の方は、おこげもでき、これがまた美味！ふっくらとしながらも、少し芯が残る感じで最高の炊きあがりでした。

あるメーカーの調査によると、「炊飯器ではなく、鍋とカセットコンロでご飯を炊くことができますか？」という質問に対し、「はい」と答えた人は50代で33％、20代ではわずか12％だったそうです。やはり「いざ」という時に、知識があるとないとではかなりの違いがあると思います。また今回体験していただいた事を、災害時以外でも何かの時に、役立てて頂けると幸いです。

皆さん、防災についてそれぞれ心がけている事や、準備していることがあるかと思います。食糧や水の用意、自宅付近の避難場所の確認など、大切な事がたくさんあります。防災対策というと少し固いイメージがありますが、今回のようにイベントとして体験しながらみんなで考えてみるのも良いなぁと私自身、感じました。

（旧植田家住宅 スタッフ）

＊今回、皆さんが一番難しいと感じられたのは、やはり火加減でした。炊き方の詳細は後ページ「なにわの伝統野菜 栽培日記」にて掲載しています。

三会所だより（6）

大阪府下にある安中新田、鴻池新田（東大阪市）、加賀屋新田（住之江区）の、建物が現存する三つの会所で集まる「三会所交流」を始めて数年が経ちます。当初はホームページの相互リンクなどから始まり、現在は様々なアイデアの中から「三会所めぐり集印地図」や絵葉書の作成、本誌の「三会所だより」の連載開始など、形ある動きが徐々に出来てきました。また個々の会所でも見学会や講座・イベントを通して相互の交流をより深めています。

知っているようで知らない会所の存在をさらにＰＲすべく、今年からは「関西文化の日」（関西元気文化圏推進協議会・関西広域機構主催）に三会所とも登録し、十一月の実施に備えています。今後は動画の作成や展示など、あれこれ希望や展望についても話し合い、その実現に向けてゆっくりと足を進めています。

さて、その三会所交流にもうひとつの新しい動きがありました。兼ねてから交流のあった平野屋新田会所（大東市）が三会所交流に初めて参加（合流）されました。

平野屋新田会所は、宝永元年（一七〇四）の大和川付け替え後の新田開発によってできた深野池（ふこのいけ）跡の新田のうち、平野屋又右衛門の所有した深野南新田、河内屋南新田の管理運営を行なった場所で、最後の所有者である高松家（銭屋長左衛門）の名前から地元では高松会所とも呼ばれているそうです。残念ながら建物は平成二十年（二〇〇八）に取り壊され、現在は敷地の一部を除き、住宅街となっています。歴史的事実と発掘調査の成果、また一部の資料と継承された土地が残された平野屋新田会所跡の活用については、大東市が市民と一体となって活動を続けられています。

多くの川と合流し、長い年月をかけて形成されてきた旧大和川のように、この三会所交流も三（さん）・五（てんご）会所、四会所と、その交流の幅が広がっていきます。平野屋新田についてもまた今後情報を発信していきたいと思います。今回はここまで。

（安中新田会所跡 旧植田家住宅　安藤 亮）

三会所情報

11月 関西文化の日 開催！

◎鴻池新田会所

✓ 11月14日（土）・15日（日）※関西文化の日にあたり入場無料
「綿くり・綿うち・糸つむぎ」

✓ 12月13日（日）「しめ縄つくり」

✓ 12月20日（日）「もちつき」

◎加賀屋新田会所

✓ 11月28日（土）平成27年度大阪の歴史再発見
～第一回「加賀屋新田会所 居宅棟二階 特別公開」（見学会）～
主催：大阪市教育委員会

鴻池

●鴻池新田会所

場　所：東大阪市鴻池元町2-30
交　通：JR学研都市線「鴻池新田」駅下車、南東に徒歩5分
開　館：10時～16時
休館日：月曜日、祝日の翌日（土・日除く）
入館料：大人300円、小・中学生200円
問合せ：06-6745-6409（電話）
06-6744-7498（FAX）

加賀屋

●加賀屋緑地（加賀屋新田会所跡）

場　所：住之江区南加賀屋4-8
交　通：地下鉄「住之江公園」駅下車、徒歩15分
市バス「南加賀屋四丁目」下車、徒歩5分
休園日：月曜日、年末年始
開　園：10時～16時30分
入場料：無料
問合せ：06-6683-8151(管理事務所)

なにわの伝統野菜 栽培日記 No.26

収穫とカマドでカボチャご飯

南瓜の身体測定

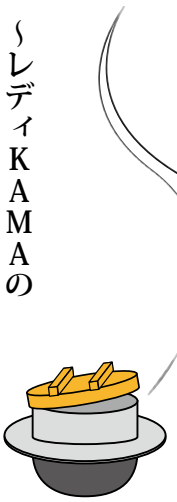
【勝間南瓜（こつまなんきん）の収穫】

9月初め、しっかり熟した勝間南瓜の収穫をした。本来この南瓜、重さは800～900gが理想だそう。しかし、昨年あたりからできるのは1kg越えは当たり前。大きいものでは1500gと、かなりメタボ気味なものがチラホラ。来館されたお客さんにも**「えらいでっかいなぁ～！これやったら〝こつま〟言わへんなぁ」**とニヤリ。おまけにひとつひとつが大きいからか、以前は40個以上できていたものが、なんと今年は13個だけ。

そこで今回、全ての重さを量り、理想とされる重さと形のものを細かく選別し、その数個から来年の種をとる事にした。次回は、ダイエットに成功した〝こつまちゃん〟の復活なるか!?

収穫して種をとった南瓜はカボチャご飯にして試食した。豆ごはんのように塩と一口大に切ったカボチャを入れて炊くだけ。畑メンバーも食べた事がない子がほとんどだったが、釜の中は、また一瞬で空っぽになった。

～レディKAMAのカマドでご飯炊き講座～



＊鍋とコンロでも同じように出来ます

〈水加減〉

炊飯器（基準）……1合＝180cc

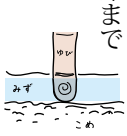
カマドの場合は1割～2割増し（新米は基準通り）

計量カップがない場合の目安

①手の大きい人（特に男性）は、お米の表面から手の甲まで辺りまで水を入れる

②手の小さい人（特に女性）は、手首が隠れる所まで水を入れる

③指の場合は、中指の第一関節まで



〈薪の入れ方〉

一．カマドの中に新聞紙やワラなどを丸めて入れる。（薪が組み易く、火もつきやすい）

二．そこへピラミッド型（三角すい）で太い薪3、4本をかませ、すき間に細い薪5、6本を入れ込む。

三．形ができたら、マッチなどで中の新聞紙（ワラ）に火をつける。

〈ご飯の炊き方（火加減）〉

☆火の調整が不慣れな方は…（初級～中級者）

「弱火～中火 → 沸騰

→ 強火 → 弱火（5分） → 蒸らし」

☆慣れている方は…（上級者）

「強火（内部に圧力をかける） → 沸騰

→ 弱火 → 蒸らし」

炊き方のコツは色々ありますが（今回は字数の都合により省略）おいしく炊くにはとにかく慣れが必要です。皆さんも機会があればぜひチャレンジしてみてくださいネ！

第七回「河内木綿まつり」開催！

～展示でみる故寺尾和一郎氏の河内木綿資料とその道具～

五月初めに植えた木綿の実綿が徐々にふき始めた九月の中旬、今年も八尾市立歴史民俗資料館主催のイベント「河内木綿まつり」が九月一九日（土）・二〇日（日）の二日間で開催されました。今回で七回目を迎えたこのイベントには、例年八尾市内の各施設や団体が協賛し、旧植田家住宅も参加しています。各会場では河内木綿をテーマにした体験や展示などを通して「八尾における河内木綿の今」を伝えています。

今年の旧植田家住宅の目玉は、昨年より行なっている「故寺尾和一郎氏 寄贈河内木綿資料と道具」の展示でした。寺尾さん（一九二七～二〇〇一）といえば、八尾市で綿作りから制作までをお一人で行なってこられた知る人ぞ知る人物で、「綿おじさん」の愛称でも親しまれていました。八尾市内の小学校に通っていた方は、社会科の副読本『わたしたちの八尾市3・4年生』（平成十四年～平成二十一年版）で一度は見たことがあるかもしれません。

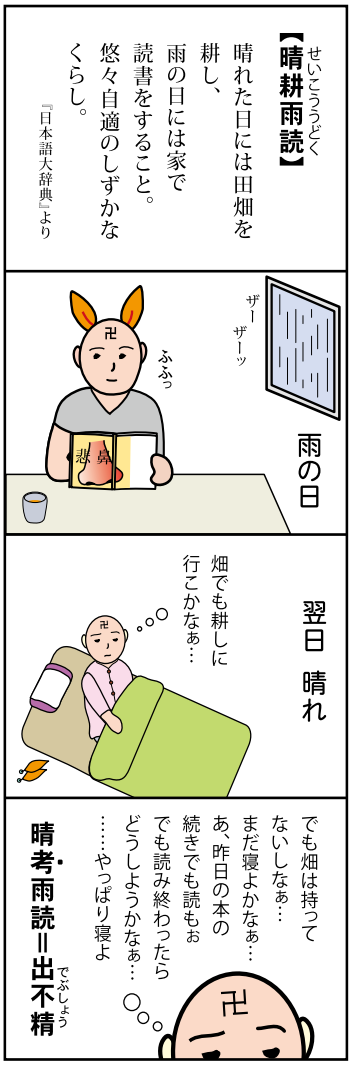
寺尾さんによって丹念に育てられた綿は、愛用の綿繰（わたく）り機と糸車によって機械紡績顔負けの細くて均一な糸に紡がれ、機織（はたおり）機でゆっくりと時間をかけて木綿になっていきます。また、幾度の試行錯誤によって様々に染められた糸や布には、木綿制作に情熱を注いだ寺尾さんの優しさや厳しさが感じられます。

寄贈された資料と道具、また記録映像も残されており、明治に衰退した河内木綿の再現を見るような感覚でした。来年もイベントの開催があれば、またぜひ展示をしたいと思います。

（学芸員 安藤 亮）

マンジーくん

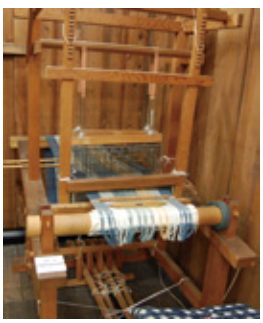
安富士 暁



座敷でミニ機織機を体験中

寺尾氏が蒐集した河内木綿資料もあわせて展示

「故寺尾和一郎氏河内木綿資料と道具」展



寺尾氏の織った作品（木綿）

←寺尾氏愛用の機織機（左）と道具たち（右）→

落穂拾い
－今東光の薫風－（二十）

文・伊東 健

東光が「週刊女性」誌上で昭和三十八（一九六三）年十二月十八日号より連載を開始した「おしゃべりな真珠」（単行本化は、昭和四十年七月三十一日で講談社発行）は、当初、「題名のない小説」としてスタートしました。

連載を何回か読んでもらってから、読者に決めてもらおうということで、題名を公募するという珍しいタイプの作品だったのです。

特賞のビクターステレオ目当ての応募も多かったと推測されますが、なんと五万八千六百三十八通の応募があったことが連載十三回目の三月十八日号誌上で発表されています。東光は〝題名審査を終えて〟で次のように記しています。

五人の若い女性はぼくの目には光り輝く五つの真珠のような気がする。彼女らのおしゃべりを聞いているのはぼくには、たいへん楽しいことだ。

彼女らは、自分の運命を開くに、回転木馬のように成長していくのだ。ぼくはこっそりと彼女らのおしゃべりを立ち聞きしながら、書き続けていくのだ。

もし、深い海底に眠っている真珠が、おしゃべりをしたら、どんなにおもしろいだろう。

ぼくは若い女性の心の奥にうめられたおしゃべりを、ひと言も聞きもらすまいと思っているのだ。

東京の私立女子高を卒業した明美、リカ、奈々子、加代子、蘭子の五人が社会に出ていき、翻弄されながらも成長していく様子は、東光が大好きな現代風俗を描写しようという意欲にみちあふれています。ファッション、デザイン、旅行、香水、音楽、宝石に恋愛と、華やかな小道具で彩られる中で、次のような会話に代表されるような本音が語られます。

蘭子は奈々子を会社に訪ね、二人は奈々子の勤めている航空会社の地階の喫茶店でコーヒーを飲みながら

「まったく驚きよ」

と言って彼女の体験を話した。

「まあ。そうォ」

「あたしなんか学校では少し不良だと言われたけど、大人の世界に入ってみたら不良なんてものじゃないわ。純心無垢よ」

「自分で言うのは当(あて)にならないわよ」

「本当よ。大人って奴は悉(ことごと)く悪人よ。悪人にならなくちゃこの浮世の渡世はできないってことよ」

「まるで博奕打(ばくちうち)の世界ね」

「その通りよ。奈々子。あなたも博奕打にならなきゃ駄目よ」

蘭子は大いに闘志を燃やして語った。蘭子なら腕利きの編集者になるだろうと奈々子は思った。

恋愛相談や航空機事故の深刻な会話等も織り交ぜながら、世相の一端を語る真珠達の成長を描写した今東光の現代物を楽しんでみてください。

「おしゃべりな真珠」
（昭和40.7.31 講談社発行）

写真提供：今東光資料館

【2015年11月～2016年1月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験（5名限定）」
〃　第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展　示

◎10月31日（土）～12月23日（祝）
企画展「植田家の花鳥風月」
※11/23（祝）ギャラリートーク（学芸員による展示解説）

2016年
◎1月6日（水）～3月6日（日）
企画展「なぞ、なぞ、昔の道具」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
http://kyu-uedakejutaku.jp/

企　画

（詳しくはお問い合せください）

◎11月
7日（土）植松灯籠の日（夜間開館）
22日（日）講座「大坂画壇と花鳥風月」（講師:明尾圭造氏）

◎12月
5日（土）旧家で愉しむ食事会（郷土食）
12日（土）こどもガイド体験講座2
23日（祝）すこし昔のくらし体験「おもちつき大会」

2016年
◎1月
17日（日）こどものためのお茶会
31日（日）連続講座「火（ひ）①」

休館日カレンダー

■＝休館日　□はイベント開催日

11 November

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12 December

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2016/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

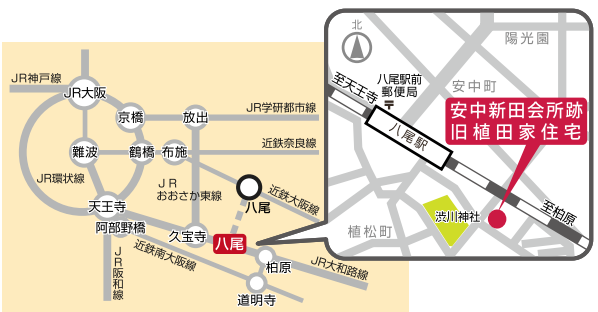
●開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

●休　館　日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
（詳しくは休館日カレンダーをご覧ください）

●入　館　料：一般200円（団体20人以上で100円）
高校・大学生100円（団体50円）
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者
および介助者は無料

●お問い合わせ
〒581-0084 八尾市植松町1-1-25
TEL/FAX：072-992-5311
E-mail：info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

シーズクリエイトは「印刷事業」と「地域活性の仕組作り」を通じて、物心豊かな“明日”をつくります。

YAOLA

事例 :no.013

商店街ツアー in 北本町中央通商店会

北本町中央通商店会にあるお店や大学をツアー形式でめぐる1日！パンを作ったり、お寿司をにぎったり、親子で楽しめる体験がいっぱい。ただ、モノを買うだけが商店街じゃない。お店の人と話しながら、自分だけの楽しみ方を見つけてみよう。

NEWS

日時：2015年11月21日（土）14:30～17:00
申込・お問合せ：北本町中央通商店会 TEL 072-336-1439
facebook:「北本町中央通商店会」で検索

リレーコラム

私たちと、八尾の街。

市民活動とは、人々の日常生活にあるべき姿

やわらかい大阪弁で話をされる姿が印象的な、新福さんにお話を聞きました。

「2004年に開設したつどい。当初は、八尾市内での市民活動を支援し、そのネットワークを構築していくことが目的でした。その後、2011年に私が業務責任者になって、外へ出向き地域活動団体とのつながりも意識したことがつながり、2013年頃から市民活動以外にも、地域活動団体、行政、学校園、事業者など、その対象が増え、業務が拡大しました。

主な活動は、市民活動の会議や印刷時に施設を利用できるハード面、情報発信や提供などネットワーク構築に必要な場づくりなどソフト面のサポートです。市民活動を地域や教育機関等に派遣したり、自ら講演会に出向いて啓発活動、さらにNPO法人設立に関する相談・アドバイスなど、ソフト面でのサポートは特に充実していると思います。この4年程で、子育て世代の方の活動が増えたり、近所の小学生が「つどい」に遊びに来てくれたりと、若い方が興味を持ち始めるようになってきたのは嬉しいですね。

つどいの活動をひとことで言えば「中間支援」。なんか難しく聞こえますけど、お互いの求めていることをつなげて共に活動を行うように間に入るんです。間に入ることで、時には子どもたちと一緒に取り組むときは先生になった気分になり、市民活動の普及に取り組むときは布教活動を行う気分になったりと、いろんな方々と接しながら、その場面によって色んな立場になりすますことが出来る。これが、この仕事の一番の面白いところです。そして、お互いがつながり、ともに活動し、八尾のみんなのためになる公益活動の芽が生まれた時が一番のやりがいですね。

将来的には、私個人が考える極論ですが、このつどいを無くすのが最終目標です。こんな言い方すると誤解されそうですが、つどいが市民活動の入口を創り続けていく内に、みんなが自発的に活動し協働が生まれ、みんなが公益的な活動をするようになればいい。でも、今は、お役に立つという市民活動の原点を忘れて活動に必須なお金を先に考えてしまったり、反対にボランティアという言葉が、何でも無償が当たり前と言う誤解を世間に与えたりしている。市民活動＝人々の生活の原点だと思います。誰でも人のお役に立ちたいっていう気持ちは持っていて、それは特別なことではなく日常的に身の回りにありふれたこと。そんな社会を創っていけるといいなと思いますね。」

八尾市では、たくさんの面白い、ためになる市民活動が行われています。少しでも興味を持たれた方は、ぜひ、つどいの新福さんに会いに行ってください！

取材協力：特定非営利活動法人 やお市民活動ネットワーク理事・つどい業務責任者　新福 泰雅さん
法人 HP：http://npo.main.jp/yao/　つどい HP：http://www.yao-tsudoi.ecnet.jp/

安中新田会所跡 旧植田家住宅だより　発行・編集／NPO 法人 HICALI（安中新田会所跡 旧植田家住宅指定管理者）
〒581-0084　大阪府八尾市植松町 1-1-25　TEL.072-992-5311
ホームページ　http://kyu-uedakejutaku.jp　メールアドレス　info@kyu-uedakejutaku.jp
●本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断複写、転載を禁じます。

〈本社・八尾工場〉〒581-0034　大阪府八尾市弓削町南1-18　TEL.072-948-7772　FAX.072-948-7735
〈京都支社〉TEL.075-812-3670　〈神戸支社〉TEL.078-341-8221　〈東京オフィス〉TEL.03-3436-0211
株式会社 シーズクリエイト